

福間洸太郎 ピアノリサイタル

カワイコンサート NO.2182
カワイコンサート NO.2185
カワイコンサート NO.2186

2012年 9月26日(水)19:00 開演
2012年10月19日(金)19:00 開演
2012年10月21日(日)14:00 開演

会場:大宮ソニックシティ小ホール(埼玉県)
会場:北九州市立響ホール(福岡県)
会場:兵庫県立芸術文化センター小ホール
(神戸女学院ホール)(兵庫県)

ピアニスト

福間洸太郎さんからのご便り

30歳を目前にした節目の時に、このような場をいただいたことに感謝しています。この機会にピアノを学んでいる子供さんに向けて、自分の子供時代を中心に書きたいと思います。

ピアノを始めたきっかけは・・・

僕の家庭には音楽家がいませんが、姉二人がピアノを習い、母がピアノ音楽のCDをよく聴いていたので、生まれる前から「ピアノの音」は身近な存在でした。

3歳の終わりに、「自分もピアノを習いたい」と言ったものの、母に「5歳になるまで待ちなさい」とあっさり却下され、5歳の誕生日の翌週から佐藤京子先生に習い始めました。

ひとつおりの楽譜の読み方を教わると、自分の興味ある曲を片っ端から読み漁っていきました。それが小学校低学年のころの一番の遊びでした。まだオクターヴが届かない指で、無謀にもショパンのワルツやエチュードに挑戦していたのをよく覚えています。

与えられた課題のバイエルやチェルニーはあまり練習しなかったもので、なかなかテクニックは身につきませんでした。素早い初見能力はついたと思います。先生は、僕の情熱を冷ますようなことを一切言わず、レッスンの終わりには僕の好きな曲のデタラメ演奏を聴いてくださり、

「上手だね」と励ましてくださいました。

だからといって、ピアノばかり弾いていた訳ではありません。

走るのが好きで、友達と外で良く遊んだし、野球クラブにも入っていたし(下手でしたが・・・)、スーパーファミコンなどのゲームも沢山やったので、ピアノを弾く時間は1日せいぜい1～2時間くらいでした。



(小学校4年生のときの
発表会での写真)



(野球部の福間選手)

CDリリース!!

2012年09月19日 発売
Reflect dans l'eau(水の反映)
/福間洸太郎
(日本コロムビア)

COGQ-61 定価:2,940円(税込)



ドビュッシー・プログラム
アラベスク第1番
アラベスク第2番
ベルガマスク組曲
「月の光」/喜びの島
版画

1 塔(パゴダ)
2 グラナダの夕べ
3 雨の庭
映像第1集
水の反映
ラモーを讃えて
動き
映像第2集
葉ずえを渡る鐘
荒れた寺にかかる月
金色の魚
前奏曲集第1巻より「沈める寺」
前奏曲集第2巻より「水の精」

コンクールが教えてくれたもの・・・

10歳の時、母の知人の紹介で井桁和美先生に師事することになりました。先生からは、特に一音一音心をこめて歌うこと、イメージを持って弾くことを教わりました。そして、一つの曲を目標に向けてじっくり仕上げることを学ぶため、コンクールを受け始めました。最初に受けたのはピティナ・ピアノコンペティション（C級）でしたが、本選にすら進めませんでした。その後も毎年受け続け、中学2年で中2のピティナ・ピアノコンペティションE級表彰式E級（高校1年以下の部）を受けた時に、初めて全国大会に進出し奨励賞（4位）をいただきました。同年ザルツブルク・モーツァルテウムで行われた入賞者コンサートに出演させていただいた時、クラシック音楽伝統の地で感動と衝撃を受け、いつの日かヨーロッパに留学したいと思いました。



中2のピティナ・ピアノコンペティションE級表彰式
(二人の先生とのお写真)



ジーナ・バックアウワー国際コンクールジュニア部門の表彰式
(入賞者一番右)

その半年後（中学3年6月）、アメリカのジュニア国際ピアノコンクールに参加し、まさかの6位入賞。審査員の先生や聴衆に励まされ、本気でピアニストを目指そうと思うようになりました。

また、一番大切なのは「人に勝つ」ことではなく、「ピアノの技量と共に人間性や教養を深めること」ということにも気づかされました。その後もコンクールでの経験は、結果がどうであれ、いつも自分を成長させてくれる機会となりました。

音楽高校の受験も考えましたが、井桁先生の勧めもあって、自由な校風を持つ都立武蔵高校へ進学しました。高校の音楽祭・文化祭では、クラシック曲の他にポップスのアレンジを披露し、注目されました。

生徒のみならず、先生方、保護者の方からも温かい応援を受けるようになり、伸び伸びと音楽の勉強を続けることができたことは、大変幸運でした。

一方、様々な分野で活躍する素晴らしい友人たちと出会ったことは、僕の人生の財産と言えます。

演奏会に向けて・・・

さて、今回皆さんにお聞きいただくプログラムは、「水の光」がテーマとなっています。これは自分の名前にある「光」の字の持つイメージで、数年前から温めてきました。

中でも、今年生誕150年のドビュッシーは、水に関連した作品を多く書いており、『月の光』、『水の反映』、『喜びの島』という3曲の展開を楽しんでいただきたいです。

また、タイトルは水に関係なくとも、「水の光」を感じさせてくれる作品も取り上げました。プログラム最後のショパン・ソナタ第3番など、このプログラム内で聴くと新しいイメージが湧いて来るかも知れません。



武蔵高校の文化祭のポスター

昨年の東日本大震災の津波や今年の集中豪雨などで、私たちは水の怖さを再確認しました。その一方で、穏やかな「水の光」を見ていると、僕は希望や平和を感じずにはいられません。僕の演奏で、皆様の心を癒し温かな感動を与えられれば、大変嬉しいです。